

令和 8 年度 ひじやま LMO 事業計画書

1 今年度の目標

・地域での LMO の認知度を高め、活動内容を理解していただく。
・地域課題の深刻な担い手不足を解決するため、地域団体と連携・協力する機会を増やす。

2 ひろしま LMO 運営助成金を活用する事業

1 事業名	ICT 推進事業	(7) 事業中(1) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 4 月 16 日 ~ 令和 9 年 3 月 18 日	
(2) 実施場所	比治山会館 2 階	
(3) 参加者数	180 人（見込み） 月 1 回開催	
(4) 主催団体	団体名 ひじやま LMO	
4 取組内容	・月 1 回（原則第 3 木曜日） ICT 勉強会を開催する ・開催日：4/16 5/21 6/18 7/16 8/20 9/17 10/15 11/20 12/17 1/15 2/18 3/18 ・内容：スマホ・ネット・AI あるある スマホを使って身近な活用法や自治体のアプリの使用方法を学ぶ。 参加者が日頃使っているスマホ機能などの質問を受け付ける。 Zoom での配信を行い、自宅から参加できる環境を作る。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） ICT の知識がないことで、コミュニケーションが取りにくく孤立する高齢者が多いため、気軽に質問できる場所の提供をしたい。 自治体が提供しているアプリの使い方を知ることで、シニア世代の情報リテラシー向上を支援する。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） アプリの活用により、防災情報や地域のイベント情報が、これまで届きにくかった層に確実に届くようになる。 質問の場を通じて、高齢者同士や、サポートする側（地域住民やボランティア）との新しい交流が生まれる。	

1 事業名	学区夏祭り	(7) 事業中 (2) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 7 月 ～ 令和 8 年 8 月	
(2) 実施場所	未定	
(3) 参加者数	300 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 ひじやま LM0、学区社会福祉協議会	
4 取組内容	現在、各町内別で夏祭りが行われているが、単独では開催できない町もあるので、学区で集まれる祭りを開催する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） こどもからシニア世代まで、普段は接点のない住民同士が自然に集まり交流する機会を作り、孤独の防止や、地域全体でこどもを見守る社会環境とするため。 人口は増えているが地域の行事が衰退しているため、次世代の担い手不足を解消したい。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 住民やこどもたちが主体となって出店や準備に関わることで、共通の目標に向かって協力する豊かな人間形成やコミュニケーションの場となる。 こどもたちにとって「地元の楽しい思い出」となり、将来的に地域を愛する心や、お祭りの担い手として戻ってきやすい絆を育てる。	

1 事業名	比治山学区町民運動会	(7) 事業中(3) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 10 月 18 日	
(2) 実施場所	比治山小学校グラウンド・体育館	
(3) 参加者数	500 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 ひじやま LM0、比治山学区体育協会	
4 取組内容	比治山学区 9 町内会と各団体が協力し合同の町民運動会を開催する。 ・比治山学区 9 町内会の対抗戦で種目別、総合で優勝を競う。 ・単一で参加できない町内は、連合チームまたは、オープン参加枠を設けて参加しやすい体制をつくる。 ・大会前にひじやま LM0 ホームページや地域の掲示板、SNS などで広く広報する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） スポーツを通じて地域住民の健康増進を図るとともに、世代を超えた多様な交流を生み出すことを目的とする。 住民が一体となって競技や応援に参加することで、地域への愛着（郷土愛）や連帯感を育てたい。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） こどもから高齢者までが一堂に会することで、普段接点の少ない世代間の交流が自然と生まれる。また、新旧住民が混ざり合って協力する機会となるため、新しい住民が地域に溶け込む契機として期待できる。日頃から「顔の見える関係」を築くことは、災害時や防犯面における地域自助力の向上に直結する。	

1 事業名	比治山学区避難所運営の防災訓練	(7) 事業中(4) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(8) 地域の防災又は減災に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 11 月 (未定)	
(2) 実施場所	比治山小学校	
(3) 参加者数	500 人 (見込み)	
(4) 主催団体	団体名 ひじやま LM0、比治山学区自主防災会連合会	
4 取組内容	地域の避難所運営を想定した、実践的な防災訓練を行う。 1. 避難所立ち上げ・受付訓練 2. 居住スペース配置訓練 3. 避難所資機材の取扱訓練 4. 物資受付・配分訓練 5. 情報収集・伝達訓練 など	
5 目的・効果	(1) 目的 (どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 災害発生時に、行政の支援が届くまでの間、住民同士が協力して迅速かつ円滑に避難所を立ち上げ、運営できる体制を整えることを目的とする。普段から資機材の扱いを学び、役割分担を確認しておくことで、混乱を最小限に抑え、災害弱者を含めた全員の命と生活を守る地域力を高める。 (2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) この訓練を地域で開催することで、災害時の「初動の混乱防止」と「避難所の安全・安心な環境づくり」が実現できる。住民一人ひとりが役割を理解することで、行政に頼らず迅速な避難所立ち上げが可能になる。	

1 事業名	スリストムバスケットボール教室	(7) 事業中 (5) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(12) 地域の魅力の向上に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 12 月 13 日	
(2) 実施場所	段原中学校体育館	
(3) 参加者数	100 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 ひじやま LMO、HAL 比治山	
4 取組内容	3 人制（スリーエックススリー）バスケットボールのプロ選手に来ていただき、子どもたちに、3x3 の基本ルールや基礎を学ぶ教室、プロ選手との対決・ゲーム、トークショー・質問コーナー・サイン会を行う。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） プロ選手との交流を通じて競技の魅力を発信し、3x3 の普及を図るとともに、こどもたちの競技力向上とスポーツへの意欲を高めること。この競技は、展開が速く全員が主役になれる特性を通じて、「瞬時の判断力」や「仲間と協力する楽しさ」を伝え、地域における競技人口の拡大と子どもたちの健全な育成を目指す。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 年齢や学校の枠を超えてこどもや保護者が集うため、地域内の新しい繋がりやコミュニティが生まれる。 「プロ選手を招いて最新のアーバンスポーツを開催する地域」として、周辺への魅力発信に繋がる。 地域が用意してくれた特別な体験を通じて、子どもたちの地元への愛着や感謝の心が育つ。	

1 事業名	比治山学区とんど祭り	(7) 事業中 (6) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(1) 地域の伝統的な行事又は文化の継承に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 9 年 1 月 10 日	
(2) 実施場所	東雲本町公園	
(3) 参加者数	200 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 ひじやま LM0、東雲本町二丁目町内会	
4 取組内容	・とんどを組み立てて、正月飾りなどを持ち込みとんどに付ける。 ・点火し、無病息災・家内安全・五穀豊穰・商売繁盛・学業成就を祈念する。 ・お餅を焼いて食べる。 ・片付け	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 昨年度まで東雲本町二丁目町内会だけで行ってきたが、担い手不足となり運営が難しくなってきたので、伝統を絶やさないために今後は比治山学区全体で開催したい。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） とんど祭りは、多世代や新旧住民が共同作業を通じて集う場を創出する。日頃から顔の見える関係を築くことで孤立防止や防災時の共助体制を強化し、資材の竹林伐採による環境整備や郷土愛の育成にも貢献すると考えられる。	

1 事業名	第 50 回子ども天国	(7) 事業中 (7) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(5) 地域のこども及び子育て世帯への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 9 年 3 月 21 日	
(2) 実施場所	比治山小学校グラウンド	
(3) 参加者数	500 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 比治山学区子ども会連絡協議会	
4 取組内容	地域の子どもたちに愛されてきた「子ども天国」が 50 周年の節目を迎えるので、今年度は規模を拡大する。 ・ステージ・模擬店・神楽などを予定している。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 「子ども天国」50 周年を拡大して開催する目的は、半世紀の歴史を節目に、「子ども主体のイベントから、地域住民全員が主役となる祭りへと進化させること。多世代や新旧住民が広く集う交流の場を創出し、地域の絆をより強固にしながら、子どもたちの健やかな成長と未来へ続く持続可能なコミュニティを築きたい。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 全員参加の祭りへ進化させることで、世代を超えた『地域総出の助け合い体制』と「担い手不足の解消」という効果が期待できる。 地域全体で子どもを見守る環境が整い、次世代へのスムーズな行事継承にもつながる。	

3 自主財源で実施する事業

特になし。